

10月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表 - 1 参照）

10月分の販売電力量の合計は、56億4,200万kWh、対前年比98.6%の実績となり、前年に比べ9月の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加があるものの、前年よりも検針期間が短かったことや契約電力の減少などから、前年実績を下回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

電灯

電灯は、前年に比べ9月の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加があるものの、前年よりも検針期間が短かったことなどから、対前年比98.5%と前年実績を下回りました。

電力

電力は、前年に比べ9月の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加があるものの、契約電力の減少などから、対前年比98.6%と前年実績を下回りました。

（表 - 1：販売電力量）

（単位：百万kWh、%）

区 分	当 月 実 績 (A)	前 年 実 績 (B)	前 年 比 (A/B)
電 灯	1,598	1,622	98.5
電 力	4,044	4,101	98.6
合 計	5,642	5,724	98.6

個々の数値の合計と合計欄の数値は、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

10月の発受電電力量の合計は、61億7,800万kWh、対前年比97.1%の実績となり、前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率89.3%の湯水となったが、前年出水率を9.1%上回ったことなどから、発電量は前年を1,000万kWh上回る3億9,800万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を7億8,500万kWh下回る40億3,300万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を400万kWh下回る6,400万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では、前年を2億6,400万kWh上回る20億5,400万kWhとなりました。

(表 - 2 : 発電電力量)

(単位 : 百万 kWh、%)

区 分		当 月 実 績 (A)	前 年 実 績 (B)	前 年 差 (A-B)	前 年 比 (A/B)
自 力	水				
	自流式	375	371	4	100.8
	貯・揚水式	23	17	6	132.2
	計	398	388	10	102.2
社	火 力	4,033	4,818	-785	83.7
	原 子 力	0	0	0	-
	新エネルギー 等	64	68	-4	95.5
	合 計	4,495	5,274	-779	85.2
他 社 受 電		2,054	1,790	264	114.8
融 通		-369	-697	328	52.9
揚水用動力		-2	-1	-1	339.6
発電電合計		6,178	6,366	-188	97.1
出 水 率		89.3	80.2	9.1	-

新電力に対するインバランスなど未確定値を含みます。

以上